

滑車セットを活用した3点後肢吊上げ保定法の検討

淡路基幹家畜診療所 三原診療所

○橋本宰昌 林 小夏 長谷川弘哉 山本直史 藤本修司 住 伸栄

従来のロープなどを用いただけの簡易保定による蹄病処置は施術者にとって体力を要し、危険な作業でもある。その処置は確実性に欠ける例もある。また従来の移動式枠場では患牛の誘導に多くの時間を要し、中には誘導不可能な牛も存在する。そこで牛を移動することなく、施術者にとって安全で確実に蹄病処置できる後肢吊上げ保定法を試用したので報告する。

材料および方法

管内酪農場において、2013年4月～2015年12月までの診療カルテより後肢保定方法を調査した。ステン両耳2連滑車カムクリート付+ステン片耳2連滑車とステン片耳単滑車（以下滑車セット）を活用した3点後肢吊上げ保定法の有用性について検討した。

結 果

1. ロープ吊上げ保定法46件（52%）、移動式枠場法28件（31%）、飛節巻き縛り保定法8件（9%）、組立治療枠法1件（1%）、3点後肢吊上げ保定法は6件（7%）であった。
2. 後肢3点吊上げ保定法：1) 頭側前方柱と尾側後方柱の最上位置にローリング・ヒッチ（3重とっくり結び）でロープを固定した。2) 頭側前方柱に固定して、膝蓋関節付近まで延ばしたロープと単滑車を連結した。3) 患肢側の飛節上方を引き締まるように結んだロープを単滑車に通して後方へ延ばし、尾側後方柱から延ばした滑車セットと連結した。4) 滑車をゆっくり引きながら、蹄病処置できる高さまで引き挙げて保定完了とした。
3. 後肢3点吊上げ保定法による蹄病処置の内訳は、蹄底潰瘍が4症例、疣状皮膚炎が1症例、白帯病が1症例であった。

まとめ

後肢の蹄病処置において、上に吊る梁等がない場所でロープ吊上げ保定法が使用できない場合、患牛を移動させずに保定できる方法として、飛節巻き縛り保定法と組立治療枠法の使用がある。飛節巻き縛り保定法はかなりの体力が必要であり、組立治療枠は運搬・設置に手間が掛り過ぎていた。

3点後肢吊上げ保定法は滑車セットを活用することで非力な人でも容易・迅速にアキレス腱を前後三角形に3点固定でき、肢の前後上下の動きが極めて少なく安全で確実な蹄病処置が可能となった。今後の課題として、前肢の保定方法を検討中である。